

令和元年度進行管理・評価シート
向日市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
（最終変更 平成31年3月20日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 向日市歴史的風致維持向上協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 景観法、屋外広告物法に基づく連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 大極殿整備計画事業	3
2 竹の径景観保全事業	4
3 桜の径景観保全事業	5
4 長岡宮跡周辺道路美装化事業	6
5 歴史文化交流拠点整備事業	7
6 観光マップ作製事業	8
7 長岡京・平安京連携事業	9
8 長岡京広報・PR事業	10
9 向日市文化資料館企画展示実施事業	11
10 歴史資源調査活用事業	12
11 市民歴史活動連携事業	13
12 長岡京を活かしたまちづくり支援事業	14
13 地域歴史ボランティア養成事業	15
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること	16
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、 文化財の防災に関すること	17
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への 助成・支援や連携・協力した取組みに関すること	18
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	20

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	21
-------------------------------	----

評価軸①-1

組織体制

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
向日市歴史的風致維持向上協議会の開催			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	「向日市歴史的風致維持向上協議会」は、事務局と連携し、計画の実施に関する連絡・調整を行う。 本計画の実現に向けて、ふるさと創生推進部企画広報課、建設部都市計画課及び教育部文化財調査事務所が事務局となり、庁内関係各課で組織されている「向日市歴史まちづくり庁内推進会議」において、計画推進のための庁内の連絡・調整を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
学識経験者、地元関係団体、行政(国、府、市)により構成される「向日市歴史的風致維持向上協議会」委員から歴史的風致維持向上に資する事業内容について意見を聴取した。なお、本意見聴取は、新型コロナウイルスによる情勢を鑑み、書面で行うことで法定協議会の開催に替えた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
向日市歴史的風致維持向上協議会(書面での意見聴取) 【内容】 (1)向日市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について (2)向日市歴史的風致維持向上計画の中間評価について (3)向日市歴史的風致維持向上計画の計画変更について (4)令和2年度実施予定事業の主なものについて			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
景観法に基づく連携 屋外広告物法に基づく連携		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	景観計画の策定の中で、景観計画区域を市域全域に位置付け、本市の特徴を「歴史的景観」「自然的景観」「市街地景観」の3つに分類し、それぞれの地域特徴に応じた景観形成に努めることとしている。 このうち特に、向日丘陵の自然景観、向日神社や西国街道沿いの歴史的景観、阪急西向日駅周辺の良好な低層住宅地景観などは本市として守っていき、また、良好な景観を形成していくべき地区であることから、「景観重点地区候補地」に位置付けることを検討している。 なお、景観計画は、この歴史的風致維持向上計画の内容を反映したものとし、歴史的風致の維持向上にも期するものとする。 また、屋外広告物は、景観に対する影響が大きいことから、景観計画の中で、屋外広告物に対する考え方を整理し、向日市らしい屋外広告物の施策を調査・研究することとしている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致維持向上計画との整合においては、地域特性に応じた規制誘導が必要である。 しかし、地域特性に応じた規制誘導については、地域住民の協力・理解が必要不可欠である。 そのため、地域住民との合意形成を図りながら規制誘導を定める手法として、都市計画法に基づく地区計画制度の活用が重要となる。 昨年度から、引き続き西向日自治会及び西向日の桜並木と景観を保存する会に景観計画を最終目標とした地区計画策定支援を実施している。 また、まちづくり協議会による新たなまちづくりが進められている森本東部地区において、無秩序な市街化の抑制を図るとともに、良好な都市環境の形成を目的とし、建築物の外壁、屋根等の形態及び色彩について、周辺環境との調和に関する事項を含めた地区計画を都市計画決定したところである。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		本市では、新たなまちづくりに付随して地区計画を定めた地域は洛西口東地区などで事例があるが、既存住宅地で地区計画を定めた事例はない。 歴史的風致維持向上計画と整合を図るためには、地区計画制度の成功事例を1つ1つ積み重ね、各地域に地区計画制度を浸透させ、地域住民が主体となった地域特性に応じた規制誘導が必要となる。 一方、本市ではJR向日町駅東口開設に関連した周辺整備やJR向日町駅東側の森本東部地区及び阪急洛西口駅西側地区における新たなまちづくりなど、まちの構造が大きく変化する事業が進められていることから、それら主要事業との調整を図る必要も生じている。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
大極殿整備計画事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成27年度～令和6年度		
支援事業名	文化財保存整備費(歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業)		
計画に記載している内容	史跡公有化に伴う大極殿跡や朝堂院、内裏などの一体的な保存整備と活用促進を目的として、目に見えない史跡をより体感できるように遺跡表示を整備し、大極殿祭を行う顕彰の場として保全するとともに、維持向上させる整備を行うため、計画を策定し、整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1) 平成27～30年度に史跡長岡宮跡大極殿回廊地区の埋蔵文化財範囲確認調査から保全整備に係る実施設計、整備工事、講演会や史跡めぐりなどを組み合わせた竣工記念式典の実施など、史跡活用のソフト・ハード面が一体となった活用を促進することができた。また、この間に史跡整備地の周辺道路の美装化や同整備地にデジタルサイネージを設置するなど、複数の事業を連携して実施し、史跡等地域の特色ある歴史文化遺産の活用の促進を図ることができた。 (2) 令和元年度は、史跡整備1,712.88㎡を都市公園として移管替えを行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、大極殿跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、地域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど活用の促進を図る。		
状況を示す写真や資料等			
 史跡長岡宮跡大極殿地区整備計画鳥瞰図  史跡長岡宮跡大極殿地区(整備後)  大極殿回廊整備状況(整備後)			

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
竹の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～令和6年度		
支援事業名	「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業費交付金		
計画に記載している内容	歴史的資源であるタケノコづくりから出る廃材などを利用し、延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置されている竹垣の保全改修を行い、周辺環境の保全と回遊性の向上を図ることができた。 整備延長 318.5m			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
(整備前)  ➡ (整備後)   竹垣の改修の様子			

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

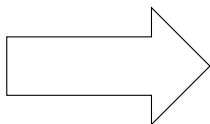
項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
桜の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和40年代～令和6年度		
支援事業名	平成27年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業		
計画に記載 している内容	桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損しているため、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、歩車道空間を含めた景観保全のための道路改良や、それらとあわせた樹木の剪定、消毒、古木の伐採や植栽を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
桜並木の剪定や古木の更新を行い、桜の径の景観保全を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

(整備前)



(整備後)



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

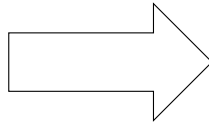
		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
長岡宮跡周辺道路美装化事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成28年度～令和元年度		
支援事業名	向日市:平成27年度～平成30年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 京都府:平成28年度～令和元年度 府単独事業		
計画に記載している内容	公共交通機関である阪急西向日駅から史跡長岡宮のそれぞれの遺跡や向日神社を結ぶ道路の美装化(カラー舗装など)を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
阪急西向日駅前道路の歩行空間を新設し、回遊性の向上を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	関係者との調整に時間を要したことから、事業期間を延伸する。		

状況を示す写真や資料等

(整備前)



(整備後)



評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
歴史文化交流拠点整備事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
事業期間	平成25年度～令和3年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	長岡宮跡周辺地区に対し、地域交流活動の拠点としての機能を向上させるとともに、通年の地域交流活動に使用しやすいよう、空調設備の新設、文化財や市民活動による作品を展示するスペース、ギャラリーなどを整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<旧上田家住宅保全整備> 都市近郊の農家住宅(旧上田家住宅)や長岡宮跡を生かした、多様な地域交流活動の拠点となる長岡宮内裏観光交流センター(史跡長岡宮跡、国登録有形文化財旧上田家住宅)整備工事の施工監理業者を決定した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		土地を史跡長岡宮跡として、建物を国登録有形文化財旧上田家住宅として整備することで、活用の促進を図る。	

状況を示す写真や資料等



旧上田家住宅 家屋及び長岡宮跡内裏内郭築地回廊整備計画平面図



旧上田家住宅航空写真



旧上田家住宅 利用者広場及び長岡宮跡内裏外郭築地整備計画平面図



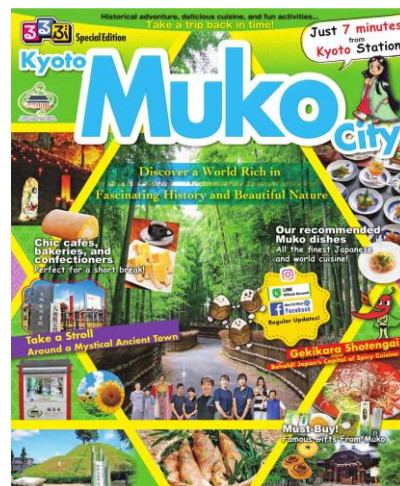
史跡長岡宮跡、登録間有形文化財旧上田家住宅整備工事完成模型

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
観光マップ作製事業		■実施済 □実施中 □未着手	
事業期間	平成26年度～令和2年度		
支援事業名	歴史的風致活用国際観光支援事業費補助金		
計画に記載している内容	本市には、市域全域に歴史・文化資源が点在しており、これまでからさまざまな手法を通じて紹介してきたところであるが、さらに、本市の歴史的風致を円滑に周遊できるよう、回遊ルートや歴史資源を分かりやすく示した観光マップを作製する。また、作製にあたっては、スマートフォン、などの通信機器への対応について、ICT技術の活用を踏まえた検討を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
観光冊子「るるぶ特別編集 京都向日市」の改訂版及び英語版を作製し、周辺のホテルや空港に配布した。なお、作製にあたっては冊子に加え、インターネット等でダウンロードできる電子ブックを作製し、市内を周遊される際の利便性向上を図った。			
作成部数：日本語改訂版8万部 英語版2万部			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



「るるぶ特別編集 京都向日市 英語版」表

「るるぶ特別編集 京都向日市 英語版」電子ブック
スクリーンショット

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
長岡京・平安京連携事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	長岡京の次に、隣接する京都市に平安京が建都されたことから、共通するそれらの歴史や歴史的風致をキーワードとして、京都市と協働で「竹の径・かぐやのタペ」や歴史巡りウォーキングなど効果的なイベント事業を検討し、実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
京都市と協働で「竹の径・かぐやのタペ」「竹結びフェスタ」を開催し、歴史的風致を保全する機運の醸成につながった。 参加者数:「竹の径・かぐやのタペ」 約30,000人 「竹結びフェスタ」 約11,000人			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



＜向日市・京都市(西京区)相互交流事業＞
令和元年10月13日開催「竹結びフェスタ」

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

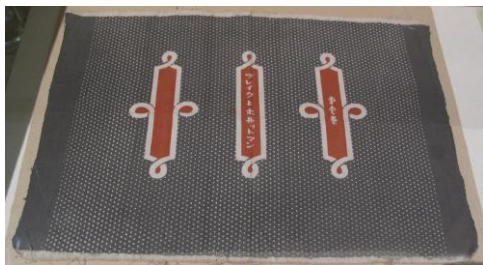
項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
長岡京広報・PR事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	長岡京が向日市にあったことを市内外に周知し、認知度を向上するため、長岡宮跡の共通ロゴやPR看板などの作製など、広報PR活動を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
引き続き、公共交通機関を利用した広報や、ロゴマークを活用したグッズ販売を行うとともに、令和元年度は市内外でのイベントにおいてゆるキャラを活用した市のPRを行い、長岡京が向日市にあったことを市内外に周知することができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
【ロゴマーク】  向日市 古都のむこう 魅力のふるさと Muko city, Kyoto - The ancient capital full of the historic charms.  ピンバッジ (1個300円で販売)  竹製ピンバッジ 市内事業者が作成・販売  むこうまんじゅう			
【公共交通機関を利用した広報】  JR向日町駅看板		【ゆるキャラを活用したPR】  向日市いいところPR隊(向日市まつりでのPR)	
【商業施設を利用したPRイベント】  ゆるキャラお披露目ステージイベント  ワークショップ  SNSを活用した写真展示			

評価軸③-9

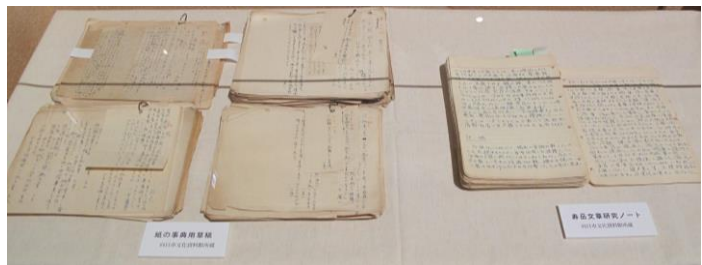
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
向日市文化資料館企画展実施事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
向日市立図書館・向日市文化資料館開館35周年記念特別展「昭和モダンと向日町」(令和元年11月2日から同年12月1日まで開催) 高い交通利便性や明るい風土、陶芸に適した土壌などを背景に多くの学者や芸術家が居住し、文化・芸術的な空気に満ちていた昭和初期頃の向日町の様子を、多数の貴重な資料により紹介することができた。＜期間中来館者数 1,501人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



『ブレイクとホキットマン』第一巻装幀用布



寿岳文章自筆研究ノート、草稿



展示風景①



展示風景②

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和元年度	
項目	現在の状況
歴史資源調査活用事業	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、歴史的風致形成建造物などの歴史・文化資源に関連する現地調査や歴史資料の調査整理を行うとともに、調査結果を活用し、歴史講座の開催や今後のまちづくりへの活用検討などを行う。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
テーマ展示「くらしのなかの戦争展」(令和元年8月3日から同年9月1日まで開催) 市民の方々から寄贈された戦争に関する資料を活用し、テーマ展示「くらしのなかの戦争展」を開催した。このうち、近年寄贈を受けたものの詳細が不明だった戦没者の遺品について調査を進めた結果、戦中に刊行された書籍から遺品の持ち主だった戦没者の詳細が判明し、今回初めて遺品を公開した。市井の人々が戦争に巻き込まれた時代があったことを示す貴重な資料を調査・活用することで、平和について考えていただく機会を提供することができた。＜期間中來館者数 2,143人＞	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	



戦没者遺品（収納箱）



戦没者遺品（千人針、御守）



展示風景①



展示風景②

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
市民歴史活動連携事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	向日市まつりなど本市で開催されるイベントと連携して行われる歴史・文化の市民活動を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
ボランティアによって復元製作された古代衣裳を展示するとともに、古代衣裳公開研修・講演会、古代衣裳着用体験会を実施することで古代の都・長岡京の歴史と文化を発信することができた。＜参加者数：公開研修・講演会58人、着用体験会35人＞ また、多くの人が集まる「向日市まつり」と連携して、「大極殿衣裳行列」を行い、より多くの人に本市の歴史・文化に対する認知と理解を深めることができた。＜参加者数：大極殿衣裳行列24人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



古代衣裳公開研修「天皇の冠、冕冠を作る」
令和元年6月29日(日)



古代衣裳講演会「古代天皇の衣裳を検証する」
令和元年6月29日(日)



古代衣裳着用体験会
令和元年8月9日(金)



大極殿衣裳行列
令和元年11月16日(土)

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和元年度		令和元年度
項目		現在の状況
長岡京を活かしたまちづくり支援事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成29年度～令和元年度	
支援事業名	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）	
計画に記載している内容	重点区域内で、長岡京などの歴史・文化資源を活かしたまちづくりに取り組んでいる団体や歴史・文化資源の維持・保全、活用に取り組んでおられる団体に対して、活動支援を行う。	
定性的・定量的評価（自由記述）※定量的評価は可能な範囲で		
豊富な歴史・文化資源を有する市の魅力を市民自らが掘り起こし、そして活用し、市民主体のまちづくり活動につなげるための勉強会「むこうスタイルLABO」の運営を行った。3年次目となる今年度は、参加者自ら企画運営を行い、市内外との団体と協力して市の名産物や歴史・文化資源のPRを行った。また、市のPRキャラクター「たけのこりん」と協力し、市内だけではなく市外においても市の魅力を発信した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	3年次目までの成果を踏まえたうえで「地域ボランティア養成事業」等との連携を図り、本事業の一層の充実を図るため、事業期間を延伸する。	
状況を示す写真や資料等		



「むこうスタイルLABO」の様子



阪急嵐山駅前で開催された
「キャラクターひろば2019」への出展の
令和元年12月14日(土)～12月15日(日)

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
地域歴史ボランティア養成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成29年度～令和元年度		
支援事業名	平成29年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度:市単独事業		
計画に記載している内容	ボランティアとして、本市に多数存在する歴史・文化資源を説明案内する活動をしている団体に対し、さらなるボランティアの養成などを行うため、必要な支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
観光を通じたまちづくりを担う人材の育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」を開講した。観光を仕事にすることを目指すマネジメントコースと、プロのガイドを目指すガイドコースを設け、本市の歴史・文化資源を説明案内するための基礎知識を習得することができた。＜受講者数:26人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和2年度以降は自主的にガイドツアーを実施するなど、受講者のさらなるスキルアップを図るとともに、「長岡京を活かしたまちづくり支援事業」との連携を通じて本事業の充実を図るため、事業期間を延伸する。		
状況を示す写真や資料等			



「むこう観光スタートアップ講座」の様子
令和元年7月27日(土)～12月21日(土) 全8回

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	重点区域内に存在する指定等文化財について、文化財の周辺環境も含めて保存活用の検討を行い、文化財指定の有無を問わず、文化財を市民の遺産として守り育てるという市民意識の醸成を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1) 令和元年度は、貴重な歴史・文化遺産である史跡長岡宮跡の価値を確認し、その価値を維持し、次世代へと確実に継承していくことを目的とし、保存・管理・活用を行うための指針として、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定した。 (2) 文化財指定等 京都府暫定登録文化財 社額「正一位向日大明神」登録1件 年度内に市内の文化財は1件増え、計97件となった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、文化財を適切に保護し活用の促進を通じ、地域振興・観光振興に努め、魅力あるまちづくりに寄与する。		
状況を示す写真や資料等			



第1回史跡長岡宮跡保存活用計画策定委員会



社額「正一位向日大明神」

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、文化財の防災に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財は、火災や事故、盗難などにより消滅や毀損すれば、再び回復することが不可能になることがある。文化財の保存修理(整備)が必要な場合は、文化財の価値を損なうことなく損傷箇所などの修理を行う必要がある。文化財の所有者・管理者は、文化財の保存修理について深く認識し、施設の維持管理と修繕、周辺環境の整備、日常の保守点検の強化、関係機関との密接な連絡等を徹底し事故等の根絶を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)文化財の修理事業 重要文化財向日神社本殿ほか自動火災報知器等点検 京都府指定文化財南真経寺開山堂・本堂自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財須田家住宅自動火災報知器等点検補助 (2)文化財の周辺環境整備 (3)文化財の防災(防火・防犯等) ①文化財消防訓練 南真経寺(令和2年1月27日) 雨天中止 ②文化財立入検査 向日神社、南真経寺、北真経寺 3か所 ③文化財防災設備保安点検補助 向日神社、南真経寺、北真経寺 3か所 ④文化財・防火点検周知 向日神社、南真経寺、北真経寺ほか市内一円 ⑤その他 ●平成31年4月19、25日 ノートルダム大聖堂の火災を受けて市内指定等文化財の所有者管理者に「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和元年6月11日 重要文化財所有者に防火対策アンケート調査を送付 ●令和元年12月24日 市内社寺等に「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和2年1月15日 市内指定等文化財お詫び文化施設に「第66回文化財防火デー」ポスター掲示を依頼			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、各種の文化財調査の修理事業、環境整備、防火防犯等の保存措置を講じる。		
状況を示す写真や資料等			



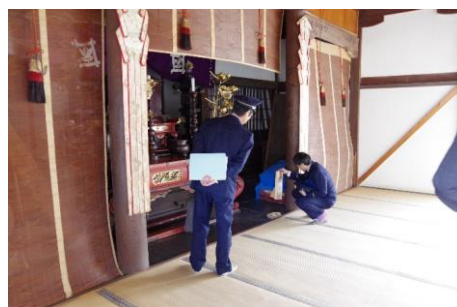
啓発看板(文化財調査事務所前)



指定文化財立入検査(向日神社)



防火設備点検(向日神社)



指定文化財立入検査(南真経寺)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	文化資料館等の施設を有効に活用し、企画の充実を図るとともに、関係施設の連携を深め、文化財の資料収集や調査研究を推進するとともに、施設機能の充実と公開活用を行い、一体的な情報発信に取り組むこととする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
1 文化財の普及啓発の取組(展示、講座、講演会、教室等) (1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」年間入館者数 15,337人 (2)史跡長岡宮跡朝堂院公園史跡案内 年間見学者数 7,506人 (3)物集女車塚古墳石室一般公開(R1.5.22～R1.5.31) 臨時公開(一般公開 428人・臨時公開 380人) (4)市民考古学講座(5回開催)・関連講演会「地図から読む戦国西岡の城館」(R1.9.14 講師:京都大学大学院人間・環境学研究科教授) 講座参加者数 292人・関連講演会参加者数 110人 (5)埋蔵文化財調査成果展示会「彩発見!古墳・王宮・城館」(R1.9.7～R1.10.14) 期間中入館者数 2,332人 (6)埋蔵文化財調査成果展示会展示関係講演会(R1.9.21 講師:兵庫県立考古博物館館長) 参加者数 110人 (7)AR長岡宮 ダウンロード数 637回(累計11,580回) 貸出タブレット利用者 360人(累計4,934人) (8)墳タビ!物集女車塚古墳 ダウンロード数 393回(累計4,572回) (9)スタンプラリー(史跡めぐり)(R2.2.22) 参加者数 120人 (10)史跡長岡宮跡復元体感具「ふわふわ!朝堂in」体験者数 290人 (11)図書館・文化資料館開館35周年記念特別展「昭和モダンと向日町」(R1.11.2～R1.12.1) 期間中入館者数 1,501人 (12)図書館・文化資料館開館35周年記念特別展記念講演会「民藝建築としての向日庵」(R1.11.10 講師:京都市文化財保護課職員) 参加者数 40人 (13)文化資料館テーマ展示 「宮都の顕彰」(H31.4.6～R1.6.2) 「くらしのなかの戦争展」(R1.8.3～R1.9.1) 「くらしの道具展」(R2.1.18～R2.2.16) (14)夏休み親子歴史教室「向日庵の和紙文化を学ぶ」(R1.7.24～25 講師:NPO法人向日庵理事、正会員) 参加者数 26人 (15)鉄道模型運転会(R1.5.3～R1.5.6) 参加者数 622人 (16)連続講座「『向日市の歴史』を読む」(5回) ①R1.6.22 参加者数 77人 ②R1.7.28 参加者数 83人 ③R1.9.22 参加者数 70人 ④R1.10.27 参加者数 64人 ⑤R1.12.22 参加者数 59人 (17)連続講座「乙訓の中世文書を読む」(2回) ①R2.1.26 ②R2.2.23 (18)歴史ウォーク 「桜の径を歩こう」(H31.4.27) 参加者数 22人 「竹の径を歩こう」(R1.5.25) 参加者数 19人 「風の径を歩こう」(R1.6.22) 参加者数 20人 「絵図で歩く向日町と西国街道」(R1.11.2) 参加者数 26人 (19)日曜談話会 「近代における古代宮都の探究と顕彰」(R1.5.19) 参加者数 25人 「向日町劇場について」(R1.11.24) 参加者数 29人 (20)歴史文化交流センター活用事業 ①「ふるさと発見 土器どきDAY」(R1.8.2) 参加者数 150人 ②「なんとなくが面白い ぶら〜り向日市」(R1.11.23 講師:京都大学人文科学研究所教授) 参加者数 24人 2 民間団体への助成・支援(令和2年2月末現在) (1)国登録文化財中小路家住宅 文化活動補助 40,000円 (2)大極殿遺跡保存協賛会 文化活動補助 40,000円 (3)森本遺跡保存会 文化活動補助 19,000円 (4)物集女城を考える会 文化活動補助 19,000円 (5)府指定文化財 鶏冠井題目踊保存会 後継者育成補助 35,000円 (6)市指定文化財 鶏冠井シャラボウ保存会 後継者育成補助 35,000円 3 民間団体との連携・協力 (1)市民団体行事及び向日市まつりでの埋蔵文化財出土遺物展示			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

1 文化財の普及啓発の取組



(1)文化資料館常設展示「長岡
京の歴史と文化」(通年)



(2)史跡長岡宮跡 朝堂院公
園史跡案内(通年)



(3)物集車塚古墳石室一般公開
(令和元年5月22日～31日)



(4)市民考古学講座
(令和元年6月15日)



(5)埋蔵文化財調査成果展示会
(令和元年9月7日～10月14日)



(6)埋蔵文化財調査成果展示会
関係講演会(令和元年9月21日)



(7)AR長岡宮の活用



(8)墳タビ！物集車塚古墳



(9)スタンプラリー(史跡めぐり)
(令和2年2月22日)



(10)史跡長岡宮跡復元体感具
「ふわふわ！朝堂in」
(令和元年10月10日)



(14)夏休み親子歴史教室
「向日庵の和紙文化を学ぶ」
(令和元年7月24・25日)



(15)鉄道模型運転会
(令和元年5月3～6日)



(16)連続講座「『向日市の歴史』
を読むⅠ」(令和元年6月23日)



(18)歴史ウォーク
「絵図で歩く向日町と西国街道」
(令和元年11月2日)



(19)日曜談話会
「向日町劇場について」
(令和元年11月24日)



(20)「なんとなくが面白いぶ
ら〜り向日市」
(令和元年11月23日)

2 民間団体への助成・支援



(1)大極殿祭開催状況
(令和元年11月11日)



(2)森本遺跡顕彰祭開催状況
(令和元年11月3日)



(3)鶏冠井題目踊披露状況
(令和元年5月3日)

進捗評価シート		(様式1-5)
評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		
		評価対象年度
		令和元年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
築280年富永屋解体へ	H31.4.6	京都新聞
法華信仰の歴史 優美に披露 向日・石塔寺で鶏冠井題目踊り	R1.5.4	京都新聞
「長岡宮」発掘 先人の努力紹介 向日市文化資料館 活動の写真や復元図並ぶ	R1.5.9	京都新聞
鳳輦巡行、豊穡の願い 向日神社神幸祭	R1.5.10	京都新聞
長岡宮「築地塀」出迎え 向日市、阪急西向日駅前に広場整備	R1.5.12	京都新聞
向日・物集女車塚古墳 22日から石室公開	R1.5.13	毎日新聞
桓武天皇の冠復元へ 向日市文化資料館市民ボランティア取り組む	R1.6.3	京都新聞
タケノコ料理 多彩に 向日で講座 ご飯や湯葉巻き試食	R1.6.24	京都新聞
寿岳文章氏夫妻の研究学ぶ 向日で講座 児童、手すき和紙作り体験	R1.7.25	京都新聞
「観光客と喜び共有を」 振興へ向日で住民講座開始 地元PRへ意見交換	R1.7.28	京都新聞
地域の遺物見学歴史知る 向日で「土器どきDAY」 児童ら縄文土器づくり体験も	R1.8.3	京都新聞
五塚原古墳に竪穴式石室 川原石使用 板石への移行期か	R1.9.10	毎日新聞
最古級前方後円墳に石室 向日の五塚原古墳から出土	R1.9.17	産経新聞
向日市キャラ「たけ」「のこ」「りん」 着ぐるみ 子らにお披露目	R1.9.30	京都新聞
「るるぶ向日市」英語版も初登場 改訂、京都市でも無料配布	R1.10.13	京都新聞
願い事成就 炎に祈る 向日神社で御火焚祭	R1.10.14	京都新聞
向日の観光施策探る 近畿運輸局のコンサル事業「竹の径」を委員ら視察	R1.10.24	京都新聞
願い事成就 炎に祈る 向日神社で御火焚祭	R1.10.14	京都新聞
向日神社周辺の歴史 絵本に 縄文時代から現代まで 教員らの研究会	R1.11.6	京都新聞
長岡京遷都に住民思いはせ 向日で大極殿祭	R1.11.12	京都新聞
衣裳行列 秋晴れに華 向日市まつり ステージ発表も	R1.11.17	京都新聞
向日で市民らが14講座「終活」「カフェ」テーマ多彩	R2.1.11	京都新聞
“椿博士”渡邊さん収集品 展示四半世紀 高まる関心 向日市図書館	R2.1.29	京都新聞
竹馬自慢 巧みに駆ける 向日で全国大会 技と速さ 70人競う	R2.2.3	京都新聞
向日丘陵の遺産触れる 史跡巡る催しに120人 古墳など7か所完歩	R2.2.23	京都新聞
物集女氏の実像に迫る 向日市文化資料館特別展「最後の当主」坐像初展示	R2.3.2	京都新聞
向日 寄り径観光を 有識者らブランド化提案	R2.3.20	京都新聞
放置竹林 手入れ託す 市民ボランティア募集	R2.3.20	京都新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
市が有する貴重な歴史・文化資源を活用した事業を実施するとともに、市内外でゆるキャラを活用した市のPRIに取り組むことにより、向日市の歴史・文化資源を広くアピールすることができた。また、近畿運輸局による観光まちづくりコンサルティング事業に参加することにより、歴史・文化資源をPRするための効果的な方策を検討することができた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和元年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称： 向日市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時：	
(コメントの概要) ○「寿岳文章自筆研究ノート、草稿」の事例から、活用の展覧会の裏には、表には見えない基礎的な調査・研究・保存作業があることが重要であると考えます。 ○他市ではガイドをしながらまちなみについて調査を行うことで、まちなみの保存が図られている事例があることから、歴史・文化資源をガイドする人材の育成は調査・保存の基礎体力の形成につながるものであると考えます。 ○歴史・文化資源の維持保全(あるいは保存)と活用の両輪が機能することが、向日市の営みの良さであり、計画期間の後半においても、バランスよく、運用されるようにしたい。	
(今後の対応方針) ○引き続き、本市の歴史・文化資源について基礎的な調査及び保存を積み重ねるとともに、向日市の魅力を市内外に発信することができる人材育成を推進し、市全体で本市固有の歴史をPRする機運を醸成する。	